

「2022年度タイ・チューラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 黒澤武史

今回の留学以前から海外とりわけヨーロッパへの関心は高く、外国語を勉強しながら自分の専攻分野に関する理解を深めてきたが、一方で東南アジアの国についての知識は少なく本研修で初めて本格的にタイ語やタイ文化を学習する機会を得た。このプログラムへの参加目的もそもそも秋から控える長期留学のための練習であったがしかしそれ以上にタイの魅力に惹かれその社会や文化への興味が自分の中で高まったのが大きな体験であったと思うし、同時に異文化のフィールドでどう人と付き合うのかについて考える大事な契機となった。日本では想像できない程タイには世界中から様々な人種民族が集まり、タイ人の中でも中国系だとか生まれが北部や南部とかで顔つきや肌が異なっていたり、さらにはジェンダーレスな人もたくさんいた。行く先によって国籍や民族の分布は異なり、例えば保養地やデパートはやはり西洋人が多いし主要なお寺には日本人観光客で溢れ、チャイナタウン、ヒンドゥー教の寺院も存在する。そのような状況で誰かと意思疎通を図るには基本的に英語であって英語が不得意な自分はこれまで半端に齧ってきた語学やら翻訳機を総動員して頑張るほかなかったがそれがむしろ楽しくもあった。英語の他にも習ったばかりのタイ語で買い物したりロシア語の表記を読んだりフランス語でお願いをしてみたり、逆に片言の日本語を話してくれる人もいた。セミナーを通して仲が深まった子は日本への留学経験があって流暢な日本語で会話してくれチュラ大生の進路だとか学生生活、タイの社会について様々なトピックを教えてもらい、逆に自分も彼らが日本について知りたいことを伝えた。その際、込み入った話になればなるほど互いに相手の言っていることをよく聞きそして類推することでなんとか危なげなく会話を進めていった。タイの友人は舌足らずで申し訳ないと言った態度をとるのだが、私の方こそタイ語を話せないし、そして何より異国の地でそれだけ話をして聞くことができる安心感に感謝で一杯であった。観光で来ると大抵は商売をする人としかなり関わらないので、タイ人自身がこの微笑みの国と呼ばれる一面の裏側で何を思っていたのか少しだけが理解できた貴重な体験だった。特にバンコクという一つの都市内で巨大な高級デパートとその対極にあるローカルな市場を同時に体験したことは印象深く、貧富の格差がより確かな意味で伝わってきた。今回の研修を通して当初の目的であった、留学に向けて準備すべきことが定まり、仏教や歴史などタイという国自体への興味も持つに至った。そして、外国の言語や文化を盛んに吸収して国外へと向かう同世代の人らを見て自分も進路や活動の場を日本だけに限る必要はなくてももう少し外の世界を見てみたいと思った。最後に日本や現地での授業を担当していただいた先生、それをサポートしていた方々、そして出会ったタイ人や様々な国の人に感謝したいと思う。